

第2学年【音楽科】指導案

日 時 平成16年9月30日(金) 5校時
生 徒 2年A組 男子17名 女子13名 計30名
指導者 中村元美

1. 題材名 「イメージからの表現」

2. 題材の目標

楽曲のイメージと強弱や旋律の特徴を感じ取り、それらの関連を生かして歌唱表現を工夫する。

3. 教材名

「夏の思い出」 江間章子 作詞 中田喜直 作曲

4. 題材について

(1) 教材観

この題材は、学習指導要領第2学年及び第3学年の表現の内容ア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること」キ「音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかり合い形式などの働きを理解して表現を工夫すること」ク「速度や強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現を工夫すること」に関わるものである。

「夏の思い出」は、日本語の語感を十分に活かして作られており、日本語の美しさを改めて実感することができる曲である。歌詞には尾瀬の自然が叙情的に表現されており、その懐かしむような自然に寄せる暖かい気持ちは、まるで誰かに語りかけているかのような穏やかな旋律とうまく融合している。16小節という短い曲の中で、表現上の記号・標語が網羅されており、日本語の持つ言葉の抑揚を生かした旋律である。音楽の諸要素の働きとそれによって生み出される雰囲気や曲想は表現の工夫をするにふさわしい教材である。

(2) 生徒観

男女とも明るく仲が良い。特別支援学級の協力学級であり、学級の一員としてお互いの良さを認め合い、協力しようという雰囲気がでてきた。歌うことが好きな生徒が女子に多く、学級の合唱活動の雰囲気を盛り上げている。しかし、声を出してのびのびと歌うことにとどまっていた。

この題材に取り組むことで、これからの表現の幅が広がると考える。歌詞の内容やその曲の仕組みや音楽の諸要素の働きを理解し、自己のイメージの膨らみとかかわらせて表現の工夫をする力を育て、今後の歌唱表現に生かしていきたい。

(3) 指導観

1学年時の直感的・感覚的に感じ取らせる段階にとどまらず、より深く感じ取らせるとともに理解させる必要がある。単にのびのびと歌ったり、楽譜の指定通りの速度や強弱で表現することから一歩ふみこんで、自分がなぜこういうイメージや感情をもったのかという根拠を、歌詞や曲

の仕組みの中にさがすことが必要とされる。

歌唱表現の技能を伸ばすことを目的とならないように配慮しながら、自己のイメージを膨らませ、その過程を経て表現を工夫する活動へつなげることを大切にしてい取り組ませたい。

5. 題材の評価規準

		ア音楽への関心意欲態度	イ音楽的な感受や表現の工夫	ウ表現の技能
内容のまとめ まりごとの 評価規準	歌唱			
	器楽			
	創作			
	鑑賞			
題材の 評価規準		<p>楽曲のイメージをつかむことに意欲的である。</p> <p>楽曲のイメージと強弱や旋律の特徴に関心をもち、それらの関係をとらえることに意欲的である。</p> <p>楽曲のイメージと強弱や旋律の特徴との関連を生かして歌唱表現を工夫することに意欲的である。</p>	<p>楽曲のイメージをつかんでいる。</p> <p>楽曲のイメージを強弱や旋律の特徴との関係においてとらえている。</p> <p>楽曲のイメージと強弱や旋律の特徴との関連を生かして歌唱表現を工夫している。</p>	<p>イメージを強弱と関連させて表現する技能を身に付けている。</p> <p>イメージを旋律の特徴（三連符、休符、フェルマータなど）と関連させて表現する技能を身に付けている。</p>

6. 題材の指導と評価（2時間計画）

時	主な内容と活動	評価規準		
		ア	イ	ウ
1	<p>旋律と歌詞の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CDの範唱に続いて『夏の思い出』を歌った後、歌詞を読み、現れてくる情景について話し合う。 <p>美しい言葉の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容を生かし、言葉の表現に気をつけて歌う。 <p>イメージの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わいてくる自分のイメージについて発言する。 ・イメージを生かした表現への気づきと工夫 ・イメージを生かすために音楽の何を工夫しようとするか考える。 			

2	<p>イメージと強弱</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを生かすために強弱をどのように工夫したら良いか、ワークシートに書き込むとともに、原曲に記されている記号と比べてみる。 <p>イメージと旋律の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時のワークシートを参考にしながら、自分のイメージが旋律の特徴とどのように関係しているか探る。 <p>イメージと音楽の諸要素の働きを関連づけた歌唱表現の工夫と技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージの根拠が『夏の思い出』のどこと具体的に関係するのははっきりさせて歌唱表現を工夫する。 全体で歌ったり、個人やグループで歌ったりして、表現を工夫する。 			
---	---	--	--	--

7. 本時の目標

自分のイメージと強弱や旋律の特徴を結びつけて歌唱表現を工夫して表現することができる。

8. 本時の評価規準・具体の評価規準

評価規準 B (観点)	評価場面 (方法)	Aの具体的状況例	Cへの手だて (支援)
<p>楽曲のイメージを強弱や旋律の特徴との関連においてとらえている。</p>	<p>ワークシート分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートにイメージと強弱や旋律の特徴との関連が十分適切に書き込まれている。 	<p>原曲を例として具体的に提示し、関連付けさせて考えさせる。</p>
<p>楽曲のイメージと強弱や旋律の特徴との関連を生かして歌唱表現を工夫している。 (音楽的な感受や表現の工夫)</p>	<p>発言チェック ワークシート分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを説明したり、繰り返し練習したりして、強弱や三連符、フェルマータなどの歌い方を工夫している様子が十分に見える。 	<p>工夫できる部分を具体的に示し、説明を加えながら理解させる。</p>

9 . 本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の配慮事項 評価
導 入	<p>1、「夏の思い出」を歌う。</p> <p>2、課題を確認する。</p>	
展 開	<p>自分のイメージと音楽を結びつけて歌おう</p> <p>3、自分のイメージを生かすために強弱をどのように工夫したら良いか、ワークシートに書き込むとともに、原曲に記されている記号と比べてみる。</p> <p>4、自分のイメージを表現するために旋律の特徴をどのように生かしたら良いか工夫点を考えて、ワークシートに書き込む。</p> <p>5、自分のイメージの根拠が『夏の思い出』のどこと具体的に関係するのかがはっきりさせて歌唱表現を工夫する。</p>	<p>記号の意味を確認する。</p> <p>自分のイメージと強弱との関係においてとらえさせる。原曲との比較を通して自己の表現を決定させる。</p> <p>表現の苦手な生徒には質問することにより、できるだけ発表する機会を与える。</p> <p>休符の位置、音の出だしの高さなど、音楽の諸要素との関連について考えるヒントを与える。</p> <p>例えば、「水芭蕉の花が咲いている」の前の休符がなかったら、「夢見て咲いている」の三連符が付点音符だったら、「はるかな尾瀬」のフェルマータがなかったら、最後の「遠い空」が上のような楽譜だったら、などといった質問をし、イメージの違いを感じ取らせる。</p> <p>説明に時間がかからないようにする。</p> <p>積極的に発言するよう促す。</p> <p>ワークシートにイメージと強弱や旋律の特徴との関連がおおむね適切に書き込まれている。</p> <p>技術的なアドバイスを適宜行う。</p> <p>全体で歌ったり、グループで歌ったりして、表現を工夫する。</p> <p>強弱や三連符、フェルマータなどの歌い方を工夫している様子が見える。</p>
終 末	<p>6、尾瀬の自然保護や環境について簡単に触れる。</p>	